授業科目名	アクティブラーニング・ファシリテーション	単位数	2単位
担当教員名	天野一哉	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）			

「学位授与の方針」との関係

DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）
DP5.共生社会創造の目的のために、様々な分野について絶えず学び続ける態度を持つことができる（継続力）

授業のテーマ及び到達目標

(1)アクティブラーニングおよびファシリテーションを理解する。
(2)アクティブラーニングをおよびファシリテーション活用するスキルを身につける。
(3)アクティブラーニングをおよびファシリテーション指導するスキルを身につける。

授業の概要

アクティブラーニングの一形態であるプロジェクト・ベース・ラーニング(PBL)およびファシリテーションの技法を用い、ディスカッション等のグループワークを通して、 課題を設定し、解決策(課題の回答)を 探究する。

授業計画

第1回:アクティブラーニング
第2回:ディープ・アクティブラーニング
第3回:学生の関与
第4回:教授学理論
第5回:協同学習
第6回:PBL
第7回:主体的対話的深い学び
第8回:課題設定(自己)
第9回:課題設定(グループワーク)
第10回:仮説立案(グループワーク)
第11回:調査(グループワーク)
第12回:分析/考察(グループワーク)
第13回:プレゼンテーション(グループワーク)
第14回:省察
第15回:展望
科目修得試験

スクーリングでの学修

第 1 回から第 7 回(自己学習)までの総括。教員からの問題提起を踏まえ、第 8 回から第13 回までをグールプワークによって実施する。

テキスト

松下 佳代 編(2015)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房、978-4326251018

参考書・参考資料等

(1)各自で自己のテーマに関する学術的専門書・論文を選択し、熟読熟考すること。
(2)天野 一哉(2013)『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか - 格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社、978-4121504562

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）